

**ボランティア活動の支援に係るアンケート調査
—活動上の課題や支援ニーズについて—
調査結果**

○調査概要

調査期間：令和8年7月30日（木）～令和8年8月31日（月）

調査対象：県域で活動を展開する、または、今後、県域で活動を予定する団体で、県との関係性強化を検討している、NPO等の団体

調査方法：神奈川県 NPO 協働推進課メルマガ登録団体（県内約 1,600 の NPO 法人）、基金 21 メルマガ登録団体（169 団体）、県指定 NPO 法人（ホームページでメールアドレスを公開している 26 の県指定 NPO 法人）に対して調査への回答依頼をメールにて実施

○調査結果

回答数：29

団体活動状況

（結果概要）

- ◆ 長期間にわたり活動を行っている回答者が多く、主に活動している地域が横浜市という回答が多い結果となった。
- ◆ 多くの回答者が活動に関する情報発信を行っており、団体ホームページ、チラシ・リーフレット、SNS を使って情報発信を行っている回答者が多かった。

設問1 貴団体が平素から取り組んでいる活動の分野について、該当する分野として当てはまるもの全てを選んでください（複数回答可）。

選択肢	回答数
1. 保健、医療又は福祉の増進を図る活動	11
2. 社会教育の推進を図る活動	8
3. まちづくりの推進を図る活動	10
4. 観光の振興を図る活動	1
5. 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動	1
6. 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動	4
7. 環境の保全を図る活動	5
8. 災害救援活動	1
9. 地域安全活動	1
10. 人権の擁護又は平和の推進を図る活動	5
11. 国際協力の活動	4

12. 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動	2
13. 子どもの健全育成を図る活動	13
14. 情報化社会の発展を図る活動	1
15. 科学技術の振興を図る活動	0
16. 経済活動の活性化を図る活動	0
17. 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動	2
18. 消費者の保護を図る活動	0
19. 上記の活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動	2

設問2 貴団体の活動期間を教えてください。

選択肢	回答数
1. 3年以内	1
2. 4年以上10年以内	5
3. 11年以上15年以内	5
4. 16年以上	18

設問3 貴団体が主に活動している地域を教えてください。

選択肢	回答数	記入内容
1. 市町村内（市町村名）	17	「横浜市」、「川崎市」、「横浜市 大磯町」、「川崎市麻生区白山」、「小田原市」、「平塚市」、「伊勢原市」、「横須賀市」、「横浜市金沢区を中心に横浜、三浦、鎌倉周辺」、「相模原市」、「横浜市青葉区」、「鎌倉市」、「横浜市緑区」、「横浜市青葉区」、「海老名市」
2. 県内の複数の市町村（市町村名）	5	「秦野市、横浜市港北区、緑区」、「横浜市都筑区、西区、中区などを中心に」、「厚木市」、「鶴見区」、「横浜市 川崎市」
3. 神奈川県全域	5	
4. 神奈川県外も含む広域	2	
5. その他（ ）	0	

設問4 現在の主な活動形態を教えてください。

選択肢	回答数
1. ボランティアを中心とした活動	12
2. 事業（受託事業・自主事業等）を中心とした活動	10
3. ボランティア活動と事業活動双方を行っている	7
4. その他（ ）	0

設問5 貴団体では、活動に関する情報発信を行っていますか。

選択肢	回答数
1. 行っている（→設問6へ）	26
2. 行っていない	1
3. 行いたいができていない	2

設問6 （設問5で「1. 行っている」と回答した団体に伺います）どのような方法で情報発信を行っていますか（複数回答可）。

選択肢	回答数
1. 団体ホームページ	24
2. メールマガジン	1
3. SNS（Facebook・Instagram・X（旧Twitter）等）	14
4. 行政等の情報発信サイトへの登録	8
5. 情報誌・会報	9
6. チラシ・リーフレット	17
7. 行政の広報誌	5
8. 新聞・雑誌	4
9. その他（ ）	1（プレスリリース、ラジオ等のメディアを通じた情報発信）

設問7 団体内で、オンラインツール（Microsoft Teams、Zoom、Google Meet など）をどの程度活用していますか。

選択肢	回答数
1. 状況に応じて活用している	20

2. 活用したいが使える人が限られ、十分活用できていない	3
3. 使える人がほとんどなく、活用できていない	4
4. 活動の中で使う場面はほぼなく、今後も活用予定はない	2

活動内容・課題

(結果概要)

- ◆ ボランティア活動を行う上で、団体の活動を担う人材（新しい参加者やボランティア等）が不足していることを課題として感じている回答者が最も多い結果となった。また、団体の安定した活動資金の確保ができていない、他団体や行政、企業等と出会いの場がないと感じている回答者も多かった。
- ◆ 他の団体・行政・企業と直接交流できる機会や意見交換会の提供を希望する回答者が最も多い結果となった。また、講座や勉強会（テーマ：人材確保、教育、後継者育成）、県ホームページを利用した団体活動の実績やボランティア募集等に係る団体情報の紹介、県ホームページを利用した他の団体・行政・企業等との交流機会の提供を希望する回答者も多かった。

設問8 ボランティア活動を行う上で、貴団体が課題と感じていることがあれば教えてください（複数回答可）。

選択肢	回答数
1. 団体の活動を担う人材（新しい参加者やボランティア等）が不足している	25
2. 専門的な知識・スキルの向上・継承	7
3. 団体の安定した活動資金の確保ができていない	11
4. 継続した団体運営（事務・会計・組織づくり等も含む。）について相談したり知識を得たりする場がない	5
5. 団体の活動の広報・情報発信の機会がない	5
6. 他団体や行政、企業等と出会いの場がない	10
7. その他（ ）	0

設問9 県が今後次の支援を実施した場合、利用したいものはありますか（複数回答可）。

選択肢	回答数
1. 講座や勉強会（テーマ：人材確保、教育、後継者育成）	10
2. 講座や勉強会（テーマ：団体の運営能力・事業実施能力の向上）	4

3. 講座や勉強会（テーマ：外部の人脈づくり、ネットワークの拡大）	5
4. 講座や勉強会（テーマ：ファンドレイジング、寄附募集、資金調達）	8
5. 講座や勉強会（テーマ：NPOの設立や運営などの基礎的な知識）	1
6. 相談（経営支援）	4
7. 相談（課題解決のための協働マッチング支援）	5
8. 団体の事業や活動を発表・PRする機会の提供	9
9. NPO関連の図書・資料の提供	1
10. 県ホームページを利用した団体活動の実績やボランティア募集等に係る団体情報の紹介	10
11. 県ホームページを利用した他の団体・行政・企業等との交流機会の提供	10
12. 打ち合わせ・会議等で利用できる活動スペースの提供	8
13. 他の団体・行政・企業と直接交流できる機会や意見交換会の提供	13
14. その他（ ）	5

※「14. その他」の回答内容

○ボランティアサロンを毎月使用しているが、8名を超える予約テーブルが1個しかない。取り合いになるのが心配。

○特にない

○特にありません

○人材の若返り

○以前は、政令市は別として県央、湘南、西湘、三浦地区等でタウンミーティングのようなものが行われていたような気がしますが見かけませんね

ボランティア受入

（結果概要）

- ◆ ボランティアを受け入れたいと考えている回答者が多い結果となった。現在ボランティアの受入れを行っている回答者も多く、社会人を受け入れている回答者や、年齢を問わず受け入れている回答者が多かった。
- ◆ ボランティアの受入れを行っていない団体としては、年齢を問わず受け入れたい、あるいは社会人を受け入れたいと考えている回答者が多かった。

設問 10 貴団体では、ボランティアの受入れを希望していますか。

選択肢	回答数
1. 現在、積極的に受け入れたいと考えている（→設問 11 へ）	9
2. 条件が合えば受け入れたい（→設問 11 へ）	15
3. 現時点では受け入れを希望していない	4
4. わからない	1

設問 11 （設問 10 で「1. 現在、積極的に受け入れたいと考えている」、「2. 条件が合えば受け入れたい」と回答した団体に伺います）現在、ボランティアの受入れを行っていますか。

選択肢	回答数
1. 行っている（→設問 12 へ）	18
2. 行っていない（→設問 13 へ）	6

設問 12 （設問 11 で「1. 行っている」と回答した団体に伺います）現在、どのような方を受け入れていますか（複数回答可）。

選択肢	回答数
1. 高校生	3
2. 大学生・大学院生	8
3. 専門学校生	6
4. 社会人	13
5. シニア	9
6. 親子・家族	2
7. 年齢を問わない	11
8. その他（ ）	2

※「8. その他」の回答内容

- 活動は主に、小学生向けの省エネ、SDGs に関係した講座と工作教室
- 地域の活動団体（老人会等）

設問 13 （設問 11 で「2. 行っていない」と回答した団体に伺います）今後、どのような方を受け入れたいと考えていますか（複数回答可）。

選択肢	回答数
1. 高校生	0
2. 大学生・大学院生	2
3. 専門学校生	1
4. 社会人	3
5. シニア	2
6. 親子・家族	0
7. 年齢を問わない	4
8. その他（ ）	0

協働・共創

(結果概要)

- ◆ 協働・協力したい相手として行政を含め、いろいろな相手との協働・協力を希望する回答者が多い結果となった。
- ◆ 条件等が合えば、他のNPOやプロボノ、企業等の協力者を受け入れることを希望したいと考えている回答者が多い結果となった。また、自身の団体の活動目的や理念、価値観、考え方、目指す方向等を、協働する相手に理解、賛同してもらえるか、継続的に協働していけるかが課題であるという趣旨の回答が多かった。
- ◆ プロボノに関心はあるが関わったことはない回答者が最も多い結果となった。プロボノを知らなかった、あるいはプロボノに過去に関わったことがある回答者も一定数いた。
- ◆ プロボノに現在関わっている、又は過去に関わったことがある回答者からは、プロボノからの支援を通じて、知識の習得や取組の広がり、改善等につながったという趣旨の回答があった。また、プロボノと関わる際、単発の関わりだけでは継続的な支援につながらないことがあるという趣旨の回答もあった。
- ◆ 共創に関心はあるが関わっていない回答者が多かった。協働・共創する相手とのマッチング、調整、伴走支援が課題という趣旨の回答があった。

設問 14 協働・協力したい相手を教えてください（複数回答可）。

選択肢	回答数
1. 行政	18
2. 企業	15
3. 大学などの研究機関	12

4. 他のNPOやボランティア団体	15
5. 学生ボランティア	11
6. プロボノ（専門知識・スキルを活用した社会貢献活動を行う人）	10
7. 自治会・町内会	13
8. その他（ ）	5

※「8. その他」の回答内容

- ☐ 現状は協働を計画していない
- ☐ 近隣小学校・中学校など
- ☐ 特に決まっていない。
- ☐ 自治会はすでに形骸化しています。これは行政の責任が重いです。「あれは任意団体だから」と言って介入を躊躇してきた結果だと思います。マンションに自治会がないという現実を受け止めてください。
- ☐ 剣道愛好家

設問 15 設問 14 で回答した協働・連携したい相手に順番を付けてください。

例：1位プロボノ 2位企業 3位学生ボランティア 等

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
1. 行政	8	4	1	0	1	1	0
2. 企業	3	7	1	2	0	0	1
3. 大学などの研究機関	0	1	6	1	1	0	0
4. 他のNPOやボランティア団体	5	1	2	3	1	0	0
5. 学生ボランティア	0	5	1	1	0	1	2
6. プロボノ（専門知識・スキルを活用した社会貢献活動を行う人）	3	0	0	0	3	0	0
7. 自治会・町内会	1	2	3	1	0	2	1

8. その他 ()	1 (剣道 愛好家)	0	0	0	0	0	0
---------------	---------------	---	---	---	---	---	---

※ 未回答者がいるため、各選択肢の回答数の合計は設問 14 の回答数と合致しない。

※ その他の回答

- 特になし。
- 同じ活動場所での他団体との深耕
- ボランティア＝無償奉仕者という社会的概念を変えてほしい。有償ボランティア制度の導入に行政が資金を出すべきだと思います。行政との協働事業と言っても、活動の結果、協力した団体には何も金銭的なメリットをもたせない。何が協働なのか シニアボランティアは65歳で地域に戻っても、地域とのつながりが断絶していてなかなか入ることができない現実が行政も把握して、社会貢献という「価値」を高める方策を考えてほしい。

設問 16 かながわ県民活動サポートセンターでは、NPOが実施、主催している社会貢献活動やプロジェクトに対して、他のNPOやプロボノ（専門知識・スキルを活用した社会貢献活動を行う人）、社会貢献活動に興味・関心のある企業等が参加し、NPOの活動に協力する「NPOとの協働」を進める新たな取組を検討しています。貴団体の活動に協力することを希望する他のNPOやプロボノ、企業等がいた場合、協力者を受け入れることを希望しますか。

選択肢	回答数
1. 積極的に協力者を受け入れることを希望したい	4
2. 条件等が合えば協力者を受け入れることを希望したい	15
3. 協力者を受け入れたいが、今まで受け入れたことがないので不安がある	5
4. 協力者を受け入れることを希望せず、自分の団体に関わるメンバーのみで活動を進めたい	5
5. その他 ()	0

設問 17 設問 16 の「他のNPOやプロボノ、企業との協働」を希望する場合は、どのような課題がありますか。

回答内容
本会の状況や理念を十分に理解して参加してもらいたい。
どのような協働ができるかは未知数
協働に向けての働きをする余裕がほとんどない
協働することで現在の活動の良さや自由度が損なわれる可能性もあると思われる

特別な課題は感じていないが、当方の「障害福祉」活動分野や SDGs 取組み分野での協働を中心に考えたい。
ボランティアでも、謝礼が発生する現代、作業に関する対価としての賃金が支払うことができない。 地域の耕作放棄地の活用で市の花キキョウを中心に花栽培をしてきたが、草刈り、草むしりなど、高齢化、体調不良の方々が多くなり、運営管理が難しくなっている。 地域のコミュニティとしての場としても活用してきたため地域の地域の高齢者の方々からは、継続を希望されている。
ホームページや SNS を活用しての集客力アップ ホームページやチラシデザインの作成協力 他企業とのタイアップにて金沢区の魅力発信と PR
協働、共創の知識を有し、組織改正を構築できる方を希望
児童相手の活動であり、児童の安全・安心が担保できることが条件となる。また放課後児童の育成活動であり、時間的制約が大きく、活動は主に平日・土曜日・学校長期休業日となる。
現在イベントを実施する際に他の NPO や行政を行うことがあります。NPO 同士であるとするすぐに回答を得ることができる問題も、チラシ1つとっても、行政との協働事業となると確認に時間がかかり、動きが遅くなることがあります。 活動に余白がなく、計画書に記載されていない日時、場所、対象者に行ったことに対して認められないことがあります。
考え方、目指す方向が同じかどうか
個人の家に入り活動するため、個人情報保護が嚴重注意点です。 また長期でかわり、利用者様を観察することも仕事です。 協働とは、どのようにかわることなのか、知識が少ないです。
団体の内容をよく理解してもらえるかどうか。子どもの主体性に任せている活動なので、口出ししすぎない、とかそういったことで理解が得られないことが多々あります。子どもと一緒に活動する、指導はしないということが慣れてないためです。
当会の理念に賛同し、協力・協働体制が取れる、行政・企業などでないと、活動内容に違い生じる可能性がある。
自分たちの法人の活動に合っているか。
価値観の共有 コミュニケーション能力 他者への思いやり など

活動目的や理念が一致することや、継続的に協働していけるかが課題
1. 活動を知っていただくため現在行なっていることの検証と新たな展開方法 2. 新たな事業の次の一步を進めるための方法 3. 利益の向上
剣道を通した社会貢献に理解のある方で、ボランティアで参加できる
外部からの支援による活動拡大・課題解決には大きな関心があります。一方で、当団体には受入のノウハウや伴走経験がないため、以下の点に不安を抱えています。 業務の切り出し方：ボランティアやプロボノにどのような作業・プロジェクトを切り出して依頼すべきか分からない 受入体制・管理：業務指示やマニュアル作成、コミュニケーションの維持に割けるリソースが不足している 当事者理解と接し方：適切な距離感や発言への配慮（無神経な言葉で傷つけないための事前研修やマニュアルの整備） マッチング後のフォロー：認識のミスマッチが起きた際の対応や契約・ルール作成への不安

設問 18 プロボノ（専門知識・スキルを活用した社会貢献活動を行う人）と関わったことがありますか。

選択肢	回答数
1. 現在関わっている（→設問 19 及び設問 20 へ）	2
2. 過去に関わったことがある（→設問 19 及び設問 20 へ）	5
3. 関心はあるが関わったことはない	1 3
4. 関心はない	3
5. プロボノを知らなかった	6

設問 19 （設問 18 で「1. 現在関わっている」、「2. 過去に関わったことがある」と回答した団体に伺います）プロボノを通じて、どのような支援を受けたのか教えてください。

例：デザインやホームページ・SNS の専門知識を持つ方から、広報について改善するためのアドバイスや支援を受けた 等

回答内容
知識習得
麻生図書館との協働で、事業の企画・実施に広がりを持てた

まちづくり、地域再生活動の専門家
他の関係者との連携について
プロボノ団体のサポートで横浜市の介護支援サービス補助事業運営にて3時間のプログラムでの可視化し、ボランティアさんが活動しやすくする改善点を創作し事項、改善を行なった。
企業訪問の時持参し、10分で語ることのできる資料
神奈川県民センターで実施されている税理士相談を利用した。

設問 20 （設問 18 で「1. 現在関わっている」、「2. 過去に関わったことがある」と回答した団体に伺います）プロボノと関わる中で感じた課題を教えてください。

例：プロボノ人材との出会いが少ない、継続的な支援につながらない 等

回答内容
課題は、特になかった。
継続的な支援につながらない
私の体験では、組織内部に大きなインパクトを与えるキッカケを作って頂いた、と感じています。 はつらつとし、活発な方々が色々意見を出し合い、まとめて行く光景は、馴れ合いの組織人からは、感じ取る事が多くあったと思います。結果現在の活動が成り立っております。
その時はいろいろアドバイスいただいたのはありがたかった。プロボノの方というよりこちらのその後の展開ができていませんでした。
無料相談の間では丁寧に対応していただき非常に助かりましたが、短時間の相談では当団体の活動背景や目的、特殊性を伝えきることが難しく、後に税理士の方と正式契約した際、実態に合わない助言であったことが分かり資金・会計面で苦慮いたしました。 単発の関わりでは団体の深い理解を得ることが難しく、双方の前提認識をすり合わせるハードルの高さを課題と感じています。

設問 21 企業等が主体的に参画し、社会的課題の解決につなげて新しい価値を共に創出する「共創」の取組に関わっていますか。

選択肢	回答数
1. 現在関わっている（→設問 22 へ）	2

2. 過去に関わったことがある（→設問 22 へ）	1
3. 関心はあるが関わっていない	17
4. 関心はない	5
5. 共創を知らなかった	4

設問 22 （設問 21 で「1. 現在関わっている」、「2. 過去に関わったことがある」を回答した団体に伺います）実績や課題を教えてください。

回答内容
共創の仕組みを構築することの難しさ
銀行のロビーをお借りし、当団体の活動や当事者の思いを伝える写真展を開催。 企業と連携し、当事者のニーズや生の声を活かした「育児用品開発ワークショップ」を実施。 応援企業より物品提供を受け、イベント（写真展）来場者へ配布し、啓発活動を強化。